

28 ヒヤリ・ハットについて

平成26年中に全国で発生した危険物施設における事故のうち、火災の61.1%、流出事故の31.6%が確認不十分や管理不十分などの人的要因で起きています。

人的要因による事故を防ぐには、操作確認や維持管理などを徹底するほか、日常的に起こりうるヒヤリ・ハット事例を把握し、分析することが重要です。

1 ヒヤリ・ハットとは

作業中や運転中に事故を起こしそうになり、ヒヤリとしたり、ハットしたりした経験はありませんか？

このような経験をヒヤリ・ハットといいます。

2 ハインリッヒの法則

ヒヤリ・ハットに関連して、ハインリッヒの法則があります。

これは、1件の重大な事故の背後には、29件の軽微な事故があり、300件のヒヤリ・ハットがあるというものです。

「重大な事故：軽微な事故：ヒヤリ・ハット＝1：29：300」

ヒヤリ・ハットは、事故に至らなかったためすぐに忘れがちです。しかし、事故に至らなかったのは、偶然の結果かもしれません。

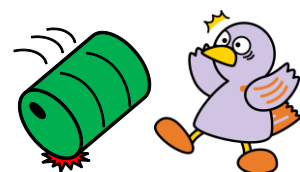
3 ヒヤリ・ハットを体験したら

ヒヤリ・ハットを体験したら、それを事故の一步手前と捉えて、「なぜこのようなことが起きたのか？」、「どうすれば防ぐことができたのか？」を考えてみましょう。

ヒヤリ・ハットには、事故を防ぐためのヒントが隠れているはずです。

4 職場で情報の共有を

ヒヤリ・ハットの体験を個人の胸にしまわず、職場に報告しましょう。朝礼や研修などの機会を通じて職場で情報を共有し、組織全体で事故防止に取り組んでいきましょう。



県のマスコット コバトン